

秋田工業高等学校 中期ビジョン（5か年計画）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状と課題

本校は、明治37年工業技術者の養成を目的に創立され、110年を超える歴史において、秋田県や日本のみならず、世界の様々な地域で産業界はもとより経済界やスポーツ界などのあらゆる分野に3万有余名の同窓生を送り出している。

「質実剛健」の校訓のもと、学校内には生徒の元気の良い挨拶が響き渡り、活気が満ちている。生徒は学業と部活動の両立を高い次元で志している。全国優勝15回のラグビー部、全国高校駅伝出場24回の陸上競技部をはじめ、全国大会に秋田県代表として出場する部活動が多く、それらの活躍は本校関係者のみならず地域住民や県民に大きな活力と勇気を与えている。また、部活動で身に付けた体力と精神力、工業学科で培った実践力や普通教科の学力、数多くの資格取得などに裏付けられた進路適性は、就職・進学において大いに実績をあらわし、進路先で高い評価を得るなど、その人材育成について秋田県工業高校の中心校として存在を顕かにしている。

しかし、全校生徒数（全日制）は平成4年度の1258人をピークに減少をたどり、平成29年度には626人と、四半世紀の間に半減した。中学校卒業者の減少は今後も続くことから、入学者の確保への影響が懸念されるとともに、継続して人材を地域社会へ送り出すための取組を一層推進する必要がある。

平成30年度に校舎改築工事が完了し、ものづくりの新たな施設設備が整備された。その環境を有効に活用した教育活動を行い、特色ある学校づくりを一層充実していくことが求められている。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

少子化による入学者の減少が予想される。今後5年間で秋田市内の中学生は200名以上の減少が予測されている。本校から地域産業に有為な人材を継続的に送り出すためには、募集定員の確保が大きな課題といえる。

また、本県における人口減少の要因の一つに、18歳年齢人口の県外流出がある。平成30年度の本校卒業生の県外転出率は、就職、進学合わせて58.3%（120/206名）であり、県内外の比率を県内側に向けなければならないと考える。

さらに2020年の東京オリンピックが終了すれば、建設業を中心とする全国的な求人数の減少が予想される。特に県内求人数が減少した場合、優れた技術・技能をもった若者が県外に流出することが懸念される。若者の地元定着に向けた、先を見通した対応が急務である。

③ 目指す方向性や学校像

一人一人の人格の形成を目指し、秋田県や日本のみならず国際社会に貢献し、工業界の発展に寄与する人間の育成に努める。

- ・心身ともに健全で豊かな人間性をもち、社会の変化に柔軟に対応できる人材を育成する。
- ・真理を追究し、将来のスペシャリストにつながる専門分野の基礎的・技術的習得し、実践と創造を重んずる人材を育成する。
- ・キャリア教育を通して、地域社会の期待に応え、自ら学ぶ力や生きる力を身に付けた自立した職業人を育成する。
- ・コミュニケーション能力を培い、国内外で活躍できる人材を育成する。

④ 5年間通しての具体的目標

- ・ものづくりコンテスト、ロボット競技、エコカーレース、建築設計コンクールなど、ものづくり系の大会で優勝を目指す。
- ・3級技能士、2級施工管理技士、第2種電気工事士の多数の合格と、2級技能士、第1種電気工事士、測量士補、甲種危険物取扱者等の高度な資格取得の合格率100%を目指す。各学科における秋工技能スタンダードの100%達成を目指す。
- ・就職、進学ともに、決定率100%を維持する。
- ・部活動では、ラグビー部の全国優勝、陸上競技部の全国入賞、各部活動の全国大会出場を目指す。
- ・実用英語検定準2級相当以上の英語力を有する生徒の割合が、40%以上となることを目指す。

具体的な取組等

○ものづくり教育の推進

- ・「ものづくり工房」の活用により、課題研究などを通して各学科のものづくりを融合させ、学科の枠を越えた創造的なものづくりを実践する。
- ・親子ものづくり教室の開催、実習施設設備の開放教室などを開催し、地域に開かれたものづくりの場を提供する。
- ・高齢化社会の到来を見据え、福祉関係の施設と連携して、各学科が福祉・介護等の現場で必要とされる器具の設計・開発や製作に参画する。
- ・これまでのものづくりの成果を基に、他の専門高校（商業・農業）と連携し、製品開発やマーケティングなどの新たな取組を通して、本県の6次産業化を担う人材を育成する。

○ボランティア活動等を通じた地域貢献

- ・地元町内会や関係機関と連携して、神社などの清掃や除雪ボランティアを実施する。
- ・本校キャンパスを活用し、地域住民と合同で避難訓練を実施することを通して、主体的な行動力やシティズンシップを醸成する。
- ・取得した資格や学習成果を活用して、地域での技術ボランティアを実施する。
- ・竿燈などの地域の祭典等への積極的な参加を促し、伝統文化を継承する心、地域や他者を重んじる心などといった社会性の育成を図る。

○キャリア教育の推進

- ・これまでのインターンシップに加え、地域企業の協力を得ながら長期インターンシップを実施する。
- ・企業と連携した現場見学や技術研修会により最先端の技術に触れさせながら、各学科の専門性とガイダンスの一層の充実を図り、自己の能力、適性を踏まえて主体的に進路選択ができるようにする。
- ・県内企業数十社を本校に招聘した「県内企業説明会」を1、2年と3年を別日程で実施し、成長段階に応じた情報収集の機会をつくり、ライフプランの醸成を図る。
- ・進路を意識し、将来のスペシャリストにつながる資格取得を推進する。
- ・ふるさと企業紹介や地元で活躍する職業人との触れ合いを通して、ふるさと秋田の良さを再認識させ、専門的職業人として活躍できる資質・能力の向上を目指す系統的なキャリア教育の充実を図る。

○グローバルに活躍できる人材の育成

- ・国内外で行われる各種研修への参加を促し、国際的感覚をもった人材を育成する。
- ・ALTとの交流の場を増やしたり、全学年が毎週朝学習でリスニングを実践したりするなど、英語コミュニケーション能力の向上に努め、「使える英語」の習得を目指す。
- ・TOEIC-Bridgeテストをはじめとした、英語に関する各種検定試験に積極的に取り組む。

○豊かな心と確かな学力の育成

- ・家庭や地域の協力を得て、学年及び各学科との連携を強化し、学校全体できめ細かな生徒指導を行う。授業やホームルーム活動、校門指導等で基本的な生活習慣を身に付けさせ、相手を思いやる豊かな心をもった人材を育成する。
- ・特別支援教育コーディネーターの増員をはかり、全職員で研修を実施し、多様な生徒に対応できる指導・支援体制を構築する。
- ・必要に応じて「学び直し」を行い、学習意欲を高め、基礎的な学力の定着を図る。
- ・上級学校、特に国公立大学工業系学部等を目指す生徒が、進学を果たし、その後の研究活動でリーダーシップを発揮できる素養を身に付けるための授業及び補習等の充実を図る。

○部活動による人間教育と学校の活性化

- ・部活動を通じた人間形成の充実を図るとともに、運動部、文化部ともに向上心と創意工夫を持って活動することで、学校の一層の活性化を目指す。

秋工生の実践目標

1 「秋工チャレンジ4つの柱」

- ① ものづくり ② 資格取得 ③ 部活動 ④ 英語が使える秋工生

2 文武両道 学業と部活動の両立

